

大阪城

2024
1/18
(木)
14419
号

全
西
成
分
会

2247
6647-
4947

昨日(1/17)は、阪神大震災29年だった。

1/1に発生した能登半島の地震は、神戸、

関西での地震とはかなり違った問題と捉

かかっている。復旧と同時に、こゝから将来、能登

半島で人間が安心して生活し、住み続ける

ためには、大きく、根本的な政治的・経済的対策が

科学に基づいて、国家的な政策が実施

されなければ、むづかしいと思われる現象が

おこっている。土地が4メートルももち上ったり、

海底が陸になって港が使えなくなったり、今後毛

地雨辰が長く、活断層があり、地震列島の代表

のような場所であり、交通の便が悪い地方で

ある。日本の国家力が問われよう(だろう)。

そんな重大な国家的課題が出てきたから、26

より、通常国会が開かれ、政治的討論が

始まり、方針を決め、政治行動が実行されていく。

昔から治山治水が政治の基本であるといわれ

ているが、自然や地球の地震という動きに対し

今ある科学力を最大限につかい、どういう政治も

未来にむけて打ち出していかば、重要で根本的な

政治課題だろう。えたいの知れない竜の時代の

幕が上がったようにです。

阪神大震災29年を翌日に控えた16日夕、神戸市中央区の公園「東遊園地」で市民らによる追悼行事「1・17のつどい」が。17日には同公園のほか、県内各地で追悼行事が開かれました。（日経新聞）

能登のライフライン復旧、馳知事「春が目標」

能登半島地震2024年1月16日

石川県の馳知事は16日、能登半島のライフラインの復旧時期について「春が目標」と言及した。地域ごとに能登半島地震の被害状況の分析を急ぎ「4月からゴールデンウィークをメドに仮設住宅に入っていただけの流れを作りたい」と述べた。16日の県庁での災害対策本部会議後、記者団に話した。（日経）

阪神淡路大震災（こうべ大地震）

29年前になりましたが、つい最近のことのように感じる感覚です。

200年に一度歩かないかの出来事であり、こんな災害一生に一度体験できたらあとはないとも言われたものですが、この間に東北大地震に・熊本大地震・そして今回の北陸能登半島大地震と言う具合につぎからつぎへと大災害に見舞われる我が国日本。

こうした大災害のことになって、日本の防災能力・対応能力がすいたいしているのではないかとつくづく感じます。とくに土木・建設に従事する労働者のシステムが脆弱になっているのがきになります。自衛隊は救護にかつやくしていますが、災害復旧には建設・土木の労働者の働きが欠かせません。